

小野田赤十字病院長による 地域公民館での講演録

(第2回 年内連載予定)



平成30年5月17日(木) 10:00~11:30 本山公民館(健康講座 第1弾)

演題：「健康診断について」

清水 良一

講演要旨：いわゆる一般的な健康診断に関しては、山陽小野田市では、国民健康保険に加入しておられる方と社会保険加入者の被扶養者の方および後期高齢者医療保険に加入しておられる方々を対象に、前者には翌年の1月末までの任意の期日に、また、後2者には翌年の3月末までの任意の期日に『(特定)健康診査』(血液・尿・血圧・心電図などの諸検査)を低料金(500円~1000円)で受けることができる受診券が毎年5月末ごろまでには各家庭に郵送される。

一方、『がん検診』(胃・大腸・肺・前立腺・乳腺・子宮)に関しては、別途『がん検診』用の受診券が配布されるわけではなく、5月中旬に各家庭に配布される山陽小野田市の広報紙の中に、年に1回だけの案内のため、注意が要る。

そのため、各種の『がん検診』に関しては各個人の責任において翌年1月末日までに最寄りの施設に電話等を通じて低料金での『がん検診』受診の手続きを行い、対象となるがん検診を受けていただくことになる。検診で見つかるがんの多くは早期のがんであり、治癒率も高い。{講演当日配布した健診(検診)に関する料金体系の詳細は、小野田赤十字病院ホームページ内の健診部門の項目内で、閲覧可能}

なお、隣の宇部市では『がん検診』用の受診券が『(特定)健康診査』の受診券と一緒に各家庭に配布されている。目下のところ『がん検診の受診券』の配布に関しては山陽小野田市と宇部市では対応が異なっている。

【乳がん検診について】

当日の講演では最初に乳がん検診を取り上げ、乳がんの発生する場所についての乳房の解剖学的な知識とともに実際の乳がんがマンモグラフィというレントゲン検査でどのように捉えられるかについて、カラー写真での資料とマンモグラフィ読影の現地体験を通して、深く学んでいただいた。また、乳がん検診をなぜ2年に1回は受けないといけないかについても、マンモグラフィで捉えることが可能な大きさにまでがんが成長し、その後、進行がんに進展するまでの平均的ながんの成長速度をお示しすることで、少なくとも2年に1回の乳がん検診を受けることの重要性について理解を深めていただいた。

【大腸がん検診について】

続いて、山口県で他府県に比較して特に罹患率の多い大腸がんについても、検診の内容について詳しく解説した。通常の大腸がん検診の手順は、まず、2日連続で早朝の便を検査用の容器内に採取していただき、ヒトの血液が少しでも混じっておれば陽性にできる免疫法による便潜血反応検査を実施し、2日のうち1日でも陽性となった人を対象に2次検診の大腸内視鏡検査を受けていただくための案内が通知される。大腸内視鏡検査は通常健康保険を使って実施される。便潜血反応検査で陽性と判定されても、最終的にがんが見つかるのはその内の数%に留まるが、大腸がん患者に限れば、がんの人の94%は便潜血反応検査で陽性となる。ちなみに、便潜血反応検査を1日のみの便で検査すると、がん患者の3人に2人しか陽性にならず、2日連続で採取することの意義は大変大きいことを解説した。なお、3日続けて検査を実施しても、がん患者の便潜血陽性率は2日法とあまり変わらないことも補足説明し、講演を終了した。

～筆者プロフィール～



小野田赤十字病院 院長 清水 良一

昭和55年3月山口大学医学部医学科卒業
同年、山口大学第二外科（現 消化器・腫瘍外科）に入局
大学病院に通算14年勤務、病棟医長・講師を経て
平成8年4月～平成28年3月まで小郡第一総合病院 外科部長
平成28年4月～平成29年3月まで徳山中央病院 外科診療部長
平成29年4月～ 現 職（山口大学医学部臨床教授）

資格等

日本外科学会
日本消化器外科学会
日本がん治療認定医機構
旧厚生省認定
日本乳がん検診精度管理中央機構
日本医師会
身体障害者福祉法
山口県知事指定

認定医・専門医・指導医
専門医・指導医
認定医
外国医師臨床修練指導医
マンモグラフィ読影認定医
認定産業医
指定医
難病指定医